SUISAN MIYAZAKI

2012.05 No.631

MIYAZAKI PREFECTURAL FEDERATION OF FISHERIES CO-OPERATIVE ASSOCIATIONS WEB MAGAZINE

漁業を取り巻く環境を考える

宮崎県浮魚礁利用協議会全体会議

宮崎県漁協初級職員研修会

「宮崎初かつおフェア」が多くの人に認知される !!

CONTENTS

FISHING POLITICS 漁政

- 宮崎県浮魚礁利用協議会全体会議
- ロケット打上げ対策関係漁連・漁協5県協議会開催
- ロケット打上げ情報について
- 近海まぐろ漁業問題検討会・漁船マルシップ制度対策協議会合同会議
- 漁業共済・漁業収入安定対策事業に関する全国会議
- 平成24年4月届人水揚げ表

FISHERY MANAGEMENT 漁協経営情報

- 平成24年度宮崎県漁協初級職員研修会

BUSINESS 業務情報

- JFバッテリー夏季キャンペーンのお知らせ
- 「宮崎初かつおフェア」が多くの人に認知される!!

FISHERIES CO-OPERATIVE 漁連情報

- 九州山口地区ソフトボール大会

FISHERIES EXPERIMENT 水産試験場

- 日向灘の沿岸資源の評価結果について
- 4月の動き(県関係)

RELATED ORGANIZATION 関係機関

- 宮崎県旋網漁業組合第2回役員会
- 宮崎県漁協参事会三役会
- 宮崎県漁協職連第1回役員会
- 4月の動き

水産宮崎ダウンロードサービス
※必要な方はコチラから A4 サイズで出力出来ます。

2012.5.1発行（毎月1回1日発行）

宮崎県浮魚礁利用協議会全体会議

本県浮魚礁(うみさち)の円滑な利用を図る

去る4月9日(月)水産会館5階大研修室において宮崎県浮魚礁利用協議会全体会議を開催した。協議内容については下記のとおり

・操業ルールについて
・要望事項について
・幹事会代表漁業者の選出について
・その他

ロケット打上げ対策関連漁連・漁協5県協議会開催

去る、4月17日、つくば市筑波宇宙センターにおいて、鹿児島・大分・愛媛・高知・宮崎の関係県5県による、ロケット打上対策関係漁連・漁協5県協議会が行われた。協議会では、幹事県である鹿児島県漁連の鬼丸常務の挨拶で始まり、以下の事項について協議が行われ、承認決定された。

・平成23年度活動報告について
・その他

協議会に引き続いて、種子島周辺漁業対策検討調整会が文部科学省、宇宙航空研究開発機構等、関係者が出席し、開催された。
協議内容については次の通り
・平成24年度ロケット打上計画について(案)
・平成25年度ロケット打上計画(案)概要について
・その他

ロケット打上げ情報について

1.ロケットの機種、打上げ予定日時等 (時間:24H表記で記載)

ロケット機種	打上げ予定日時	打上げ予備期間	海面落下時間(打上げ後)	打上げ場所
観測ロケット S-310-41	平成24年7月10日(火) 16時30分～17時00分 (日本標準)	平成24年7月11日(水)～ 平成24年8月31日(金)	約7分～25分後	内之浦宇宙空間観測所
H-ⅡBロケット3号機 (H-ⅡB・F3)	平成24年7月21日(土) 11時18分頃 (日本標準)	平成24年7月22日(日)～ 平成24年8月31日(金)	・固体ロケットブースタ 約6分 ～ 10分後 ・衛星フェアリング 約10分 ～ 24分後 ・第1段 約14分 ～ 30分後	種子島宇宙センター 大型ロケット発射場
合計3機				

2.情報の提供

ロケット打上げの有無については、打上げ期間中、下記により情報が提供されますので、次表のロケットカレンダー記載のロケット海面落下予想区域及びその付近を航行する漁船及び一般船舶は、ロケット打上げ情報を聴取され、もし、ロケット落下予想区域を航行等されている場合は脱出時間等を考慮し、海面落下予定時刻以前に余裕を見て退避される等航行の安全を図られますようお願いします。
(1)漁船に対しては、漁業無線局からの無線通信によりお知らせします。
(2)一般船舶に対しては、海上保安庁からの水路通報・航行警報等によりお知らせします。

3.問い合わせ先

(1)S-310-41について	(2)H-ⅡB・F3について
・宇宙航空研究開発機構　内之浦宇宙空間観測所 TEL.050-3362-3111 ・JF宮崎県漁業協同組合連合会 TEL.0985-28-6111	・宇宙航空研究開発機構　種子島宇宙センター 竹崎指令管制棟　企画調整室　TEL.050-3362-3140 ・JF宮崎県漁業協同組合連合会 TEL.0985-28-6111

近海まぐろ漁業問題検討会・漁船マルシップ制度対策協議会合同会議

去る、4月16日、フォーラムミカサ・エコ(東京都)に於いて、近海まぐろ漁業問題検討会・漁船マルシップ制度対策協議会合同会議が開催され、水産庁よりWCPFC第8回年次総会の結果報告をうけ、条約オブザーバーやマルシップ制度の今後の取組等について協議検討を行った。本県より委員4名と漁協・事務局3名が出席した。協議事項は次の通り

①WCPFC第8回年次総会の結果について
②条約オブザーバーの実施状況及び次年度の取組について
③漁船マルシップ制度の取組について
④その他

漁業共済・漁業収入安定対策事業に関する全国会議

4月20日(金)東京都ホテルグランドアーク半蔵門において漁業共済・漁業収入安定対策事業に関する全国会議が開催された。会議内容は次のとおり。

《漁業共済の部》	《漁業収入安定対策事業の部》
1.平成23年度の事業概況報告 2.平成24年度の事業方針及び加入計画について	1.水産庁からの報告 2.現場からの報告 (1)秋さけ定置網漁業における「漁業収入安定対策事業」の状況について 北海道漁業共済組合 竹川 昭雄 常務理事 (2)伊勢湾イカナゴ漁業における資源管理・漁業所得補償制度の意義 愛知県知多農林水産事務所水産課 冨山 実 課長補佐 (3)ノリ養殖業における「漁業収入安定対策事業」の状況について 佐賀県有明海漁業協同組合 松尾 修 指導2課長

平成24年4月属人水揚げ表

漁協名＼区分	4月分			4月末累計			昨年同月累計			増減		魚価対比
	数量 t	金額 千円	魚価 円/kg	数量 t	金額 千円	魚価 円/kg	数量 t	金額 千円	魚価 円/kg	数量 t	金額 千円	%
北浦	2,425	180,006	74	10,770	728,873	68	8,080	638,860	79	2,690	90,013	-14.3
島浦町	843	142,600	169	3,891	502,112	129	1,969	428,643	218	1,922	73,469	-40.8
延岡	104	52,153	502	206	96,650	469	130	32,777	252	76	63,873	86.1
延岡市	113	39,719	353	334	167,620	502	251	144,069	575	83	23,551	-12.8
庵川	181	58,168	322	496	208,882	421	405	222,423	549	91	-13,541	-23.2
門川	61	25,470	419	173	92,953	537	184	85,213	463	-11	7,740	16.0
日向市	317	218,923	690	1,620	847,947	524	1,295	782,682	605	325	65,255	-13.5
都農町	45	25,889	578	214	113,644	530	164	97,504	596	50	16,140	-11.0
川南町	351	260,327	743	1,573	898,442	571	1,142	726,394	636	431	172,048	-10.2
一ツ瀬	16	8,896	570	54	33,267	618	58	38,878	669	-4	-5,611	-7.5
檍浜	27	5,499	206	51	17,333	338	46	14,074	303	5	3,259	11.6
宮崎	229	58,565	256	545	186,130	341	467	162,347	348	78	23,783	-2.0
宮崎市	115	37,644	327	371	158,758	428	298	139,590	469	73	19,168	-8.8
日南市	675	324,589	481	2,215	1,008,943	456	2,102	981,527	467	113	27,416	-2.4
南郷	696	371,166	533	2,451	1,222,885	499	2,875	1,317,897	458	-424	-95,012	9.0
栄松	47	29,428	627	179	94,396	526	237	122,420	516	-58	-28,024	2.0
外浦	299	153,036	512	876	405,594	463	1,132	516,076	456	-256	-110,482	1.6
串間市東	260	91,680	352	713	311,442	437	623	234,757	377	90	76,685	15.8
串間市	578	330,167	571	3,220	1,693,329	526	2,697	1,541,182	571	523	152,147	-7.9
合計	7,381	2,413,924	327	29,952	8,789,200	293	24,154	8,227,322	341	5,798	561,878	-13.9

端数処理の関係で、下1桁が合わない部分があります。

平成24年度 宮崎県漁協初級職員研修会

漁連は、平成24年度漁協役職員研修事業の一環として、4月19～20日にかけて、宮崎県職業能力開発協会の主催する新人社員研修会を取り入れ、初級職員を対象として研修会を開催した。
研修内容は次のとおり

「社会人としての心構え、接遇マナー、仕事の進め方などビジネスマナーの基本」

1. 新人社員としての心構え
2. 効率の良い仕事の進め方
3. ビジネスマナーの基本
4. 電話の応対と言葉遣い
5. 様々なケースでの来客対応

以上の内容を中心にグループに分かれ実演するという形式で行われた。
参加者の感想として、「この研修を受けるまではビジネスマナー等で知らなかったことや実践できなかったことが多かったが、二日間の研修で学んだ基本をしっかり自分のものにし、今後、臨機応変に対応していきたい」などの声があがっていた。

参加者

漁協	氏名
北浦漁協	安藤 光基
島浦町漁協	畦原 孝介
日向市漁協	髙田 大二郎
延岡市漁協	甲斐 百恵
南郷漁協	發田 大介 、門川 有希

JFバッテリー夏季キャンペーンのお知らせ

皆様には日頃よりJFバッテリーをご愛顧頂き、心より感謝申し上げます。この度、春季キャンペーンに続き期間限定ではありますが下記の通り夏季キャンペーンを実施させて頂くこととなりました。
JFバッテリーにつきましては、①容量UPで長寿命化、②防爆栓の採用により安全性に配慮、③船舶専用付属端子ターミナル付き、④船舶対応取扱説明書を添付などの特徴があります。是非、この機会に「JFバッテリー」をお試し下さい。

対象期間	平成24年7月1日～平成24年8月31日
対象商品	①JFバッテリー全般
	②FB製　4輪バッテリー全般 （軽・普通自動車用A19、B19を除く）
キャンペーン価格	1台に付き通常価格より500円値引き致します。 （但し自動車用A19、B19は250円値引）

詳細はコチラ

「宮崎初かつおフェア」が多くの人に認知される!!

「宮崎初かつおフェア2012」が、去る3月30日(金)午前5時45分、宮崎市中央卸売市場魚せり場で**開催式典**である**のぼり渡し式**が執り行われてから、その後、河野宮崎県知事へフェア開催を報告し、それから5月6日(日)まで、延べ38日間、県内各地の量販店、鮮魚店、料理店など **約230店舗の参加**で実施されました。

宮崎初かつおフェア実行委員会事務局では、4色刷りの色鮮やかなのぼり旗や、河野知事によるPRポスター、それにとっても美味しそうなカツオ焼っ切りポスターを準備して、各店舗に配布しました。
店舗では、のぼり旗やポスターの掲示の他に、独自の工夫により、店舗前に看板を置いたり、初かつお焼っ切り料理を提供したりして、「宮崎初かつおフェア2012」を盛り上げていただきました。

また、期間中、宮崎**県庁前楠並木通りにバナー**を掲示して、美味しい初かつお焼っ切り料理の写真や、日本一の近海かつお一本釣りの表記とカツオ船団の写真により、新緑の中に宮崎初カツオやカツオ船団を、通行される方に強く印象付けたものと考えています。

また、**メディアによるPR**ですが、最近は、インターネットや衛星放送、スマートフォンなど、テレビ・ラジオ以外に、視聴するチャンスが増加しています。その中で、UMKテレビや、MRTラジオなどの協力で、「宮崎初かつおフェア2012」の告知に努めました。そして、初カツオCMを見て、直ちに初カツオの買い物に出かけられた奥様がいたと言う報告がありました。
宮崎初かつおフェア実行委員会でも、**ホームページ**で「宮崎初かつおフェア2012」について、掲載したところ、河野知事をはじめ多くの方々から関連のPRをして頂きました。この場を借りてお礼を申し上げます。

続いて、最近、**野平匡邦(のひらますくに)千葉県銚子市長**が宮崎市を公務で訪問された折、市内料理店で初かつお焼っ切り料理のポスターをご覧になり、随分興味を持たれて、ご自分のホームページで詳しく紹介されています。特に宮崎初かつお焼っ切り掟七ケ条及び説明を見られて、宮崎人の誇りとこだわりの烈しい気性が表現されていると、評されています。

「宮崎初かつおフェア2012」**関連イベント**は、3月31日(土)フローランテ宮崎でフローラル祭の中で、また、佐土原町久峰公園での桜まつりで、マグロ解体や刺身のふるまい、鰹一本プレゼントなどが実施されました。また、日南市では、4月28日(土)29日(日)堀川運河夢広場で開催された「海幸・山幸マルシェ日南2012」の中で、カツオのふるまいが実施され、初カツオのPRに努められました。

ところで、今回の「宮崎初かつおフェア2012」の **プレゼント企画**については、目玉賞品として、シェラトン・グランデ・オーシャンリゾートのディナー付ペア宿泊券を新たに5名様に、それとこれまで通り水産加工品セットを50名様に準備しました。その結果、406名様の応募をいただきました。ありがとうございました。
そして、3名の立会者とともに厳正に抽選を行いました。その結果については、個人情報となりますので、できる範囲でお知らせします。

ディナー付ペア宿泊券の当選者は、

①宮崎市	荒武様	利用店:港あおしま
②宮崎市	杉田様	利用店:うめこうじ佐土原本店
③新富町	永友様	利用店:うめこうじ佐土原本店
④神奈川県横浜市	岩瀬様	利用店:夢かぐら
⑤大阪府豊中市	王様	利用店:夢かぐら

水産物加工品セットの当選者は、県内外別では、県内40名、県外10名(鹿児島県、熊本県、福岡県、広島県、大阪府、静岡県、東京都国立市、千葉県、埼玉県、茨城県、)でした。
利用店内訳では、港あおしま13名、夢かぐら12名、ぎょれん丸5名、久兵衛3名、Foodly佐土原店3名、A・COOP神宮店、同田野店、同川南店、魚料理ひで丸、コープみやざき花ケ島店、同日南店、海舟寿し、鮨処わたつみ、鈴の家旅館、ドライブイン旅館大海、ながの屋、パントリーけいすけ都農店、びびんや、まつの西池店が各1名でした。来年は応募について簡単にできるようより工夫が求められます。
アンケートを実施したところ、約2割の回答がありました。詳細は後日報告書にて行いますが、総じて、大多数の方が良かったと記述されています。売上は上がった店舗が多く、変わらなかった店舗の記述もありました。

九州山口地区ソフトボール大会

日本晴れの中、4月28日（土）九州山口地区漁連・漁協ソフトボール大会が鹿児島県ふれあいスポーツランドで開催されました。
今大会は九州山口地区漁連・漁協の親睦を図るものとして平成20年度より開催され、今大会で5回目となる大会です。
結果は次のとおりです。

1.予選順位表

Aパート予選通過順位			
確定順位	1位	2位	3位
チーム名	鹿児島県漁連	宮崎県漁連	福岡県漁連
勝敗	2勝	1勝1敗	2敗

Bパート予選通過順位			
確定順位	1位	2位	3位
チーム名	長崎県漁連	佐賀玄海漁連	全漁連
勝敗	2勝	1勝1敗	2敗

Cパート予選通過順位			
確定順位	1位	2位	3位
チーム名	佐賀有明海漁連	山口県漁連	熊本県漁連
勝敗	2勝	1勝1敗	2敗

2.最終順位表（確定順位）

順位	優勝	準優勝	3位
団体名	鹿児島県漁連	佐賀有明海漁連	長崎県漁連
順位	4位	5位	6位
団体名	佐賀玄海漁連	宮崎県漁連	山口県漁連
順位	7位	8位	9位
団体名	全漁連	熊本県漁連	福岡県漁連

日向灘の沿岸資源の評価結果について

水産試験場では、昨年8月に制定された「宮崎県における水産資源の利用及び管理に関する基本方針」に基づき、効果的な資源管理を推進するための前提となる沿岸水産資源の評価業務に着手しました。水産試験場が作成した事前評価資料は、資源研究の専門家や業界団体、漁業者代表委員から構成された「県資源評価委員会」で審議を受けた後、日向灘沿岸の水産資源評価結果として、県の資源管理指針に反映されます。今回は昨年10月に開催された第1回委員会の評価結果を紹介いたします。

1.資源評価基準について

資源評価に当たっては、客観的な基準に基づき、対象とした資源の現況を的確に診断する必要があります。このため、「広域資源診断等が行われておらず、本県単独で評価が可能な水産資源」について、「本県水産業における重要性、資源管理の実績、放流等による資源造成、資源水準変化の兆候、評価資料の精度確保」等の観点から、対象種を選定することとしました。

選定された資源については、少なくとも20年以上にわたる資源量指標値(単位努力量当たりの漁獲量等)の推移から資源の状況を判断するものとし、資源レベルを四分位法で「高位、中位、低位」の3段階に、資源動向を原則として直近5ヶ年の推移を基に「増加、横ばい、減少」の3段階に区分することとしました。また、資源診断とともに、資源管理方策や資源利用に当たって考えられる提言を付記しています。

2.資源評価結果について

初年度は評価準備の整った9魚種について審議しました。詳細については、水産試験場ホームページ(http://www.mz-suishi.jp/)の「新着情報・お知らせ」に掲示していますので参照下さい。ここでは、資源評価結果の概要について示します。

(1)ヒラメ　資源レベル「中位」 資源動向「減少」

①沿岸漁獲量の半分以上を占める小型底曳網の資源量指標値は、'70年代末～'80年代中盤、'90年代前半、'00年代中盤に増大したものの、2009年より大きく減少し、現況は中位・減少であると判断されました(図1)。

②国の研究所が中核となって行われた過去の太平洋南部の資源評価、最新の瀬戸内海の資源評価では、再生産成功率(漁獲開始年齢に達した資源量産卵可能な親魚量)の低下が報告され、漁獲圧削減が必要な状態とされています。

③本県でも、市場調査の結果を見ると、産卵に参加していない0～1歳の未成熟魚の漁獲割合が高いことから、資源動向が減少であることも踏まえ、漁獲開始年齢の引き上げ(再放流サイズの拡大や禁漁区の設定による若齢魚の漁獲圧低減等)を行うことが有効と提言されました。
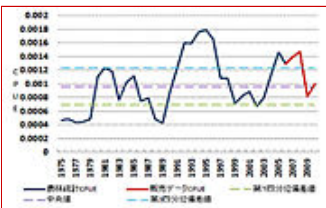
図1 ヒラメ資源量指標値の変化
[第2種小型底曳網、出漁日数・水揚日隻数当たり漁獲量]

(2)チダイ　資源レベル「中位」 資源動向「減少」

①近年継続した漁獲のある小型底曳網、その他の釣り、大型定置網の資源量指標値は、統計中断期間があるものの、'90年代より増加傾向を示し、'00年代前半までは高かったが、近年は減少傾向で、現況は中位・減少と判断されました(図2,3,4)。

②沖合漁業、沿岸漁業ともに直近での資源量指標値が減少していることから、今後の資源動向を注視する必要があると考えられています。

③将来的には、未成魚サイズの再放流や目合い拡大、休漁日設定による漁獲圧低減を検討していく必要があります。
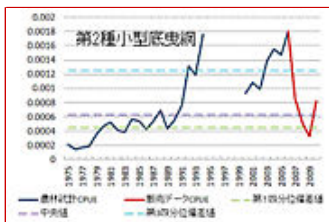
図2 チダイ資源量指標値の変化
[第2種小型底曳網、出漁日数・水揚日隻数当たり漁獲量]

図3 チダイ資源量指標値の変化
[大型定置網、漁撈体数・水揚日数当たり漁獲量]

図4 チダイ資源量指標値の変化
[その他の釣り、出漁日・水揚日隻数当たり漁獲量]

(3)タチウオ　資源レベル「中位」資源動向「減少」

①漁獲割合が変動するが、比較的卓越している大型定置網の資源量指標値は、変動が大きく、概ね'90年代が高めで、直近は2008年より減少し、現況は中位・減少と判断されました(図5)。

②太平洋側では、紀伊水道周辺と豊後水道周辺の漁獲が多く、紀伊水道域は2000年から減少、豊後水道周辺でも減少傾向に転じたと関係県が報告しています。

③増減の大きい不安定型の資源ですが、豊後水道内に資源の主体があると考えられることから、資源回復計画に取り組んでいる大分県との連携も必要かと思われます。
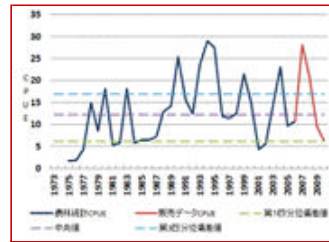
図5 タチウオ資源量指標値の変化
[大型定置網、漁撈体数・水揚日数当たり漁獲量]

(4)アマダイ　資源レベル「低位」資源動向「減少」

①漁獲の大半を占めるアカアマダイで診断しました。漁獲の主体となるその他のはえ縄の資源量指標値は、1989年をピークに減少傾向が続き、'90年代末からは低い水準。直近2ヶ年は再び減少し、現況は低位・減少と判断されました(図6)。

②漁獲物の銘柄組成からも加入量の減少、漁獲対象サイズの小型化が確認され、定着性が強いことから、早急な資源管理への取組が必要と判断されます。

③産卵親魚を確保するため、産卵期の一部禁漁や主要漁場の一部禁漁を行うとともに、加入量確保のため、現在取り組まれている生き餌規制だけでなく、休漁日の設定等による漁獲努力量の抑制が望ましいと提言されました。
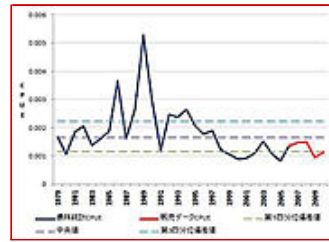
図6 アマダイ資源量指標値の変化
[その他のはえ縄、出漁日・水揚日隻数当たり漁獲量]

(5)キス　資源レベル「低位」資源動向「横ばい」

①シロギス主体となりますが、漁獲の多いその他の刺網の資源量指標値は、'80年代後半より減少傾向となり、近年は概ね低位状態が続き、横ばいの状態と判断されました(図7)。

②冬季水温の経年変化と関連が認められることから、数十年単位の海洋環境変動(レジームシフト)が資源に影響を与えている可能性が高いと考えられます。

③このため、人為的なコントロールは難しい部分があると思われますが、産卵親魚を残すような管理方策(産卵場・産卵期の禁漁等)が望ましいと提言されました。
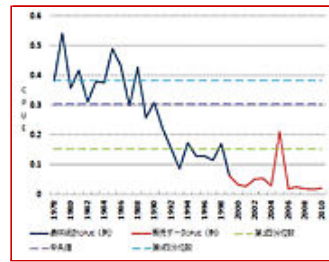
図7 キス資源量指標値の変化
[その他の刺網、漁撈体数・水揚日隻数当たり漁獲量]

(6)コウイカ類　資源レベル「低位」資源動向「横ばい」

①コウイカを代表資源として診断、半分以上の漁獲を占める小型底曳網の資源量指数は、'90年代に高い値を示した後、緩やかに減少、直近で僅かだが低位レベルに入り、動向は横ばいと判断されました(図8)。

②資源水準が低下してきており、年魚(寿命がほぼ1年)とされることから、年毎の漁獲圧が過度に増加しないよう注意が必要と考えられます。

③現状ではコウイカを目的とした操業を拡大しないようにしつつ、各年の資源動向に応じて管理措置を再検討すること、産卵場所の造成や漁具に産み付けられた卵の保護(海中への還元)など積極的資源培養への取組が提言されました。
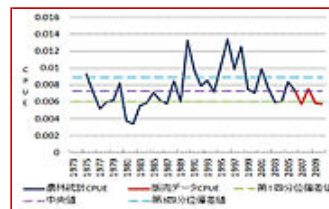
図8 コウイカ資源量指標値の変化
[第2種小型底曳網、出漁日数・水揚日隻数当たり漁獲量]

(7)クルマエビ　資源レベル「低位」資源動向「減少」

①漁獲の大半を占める小型底曳網の資源量指標値は、'90年代前半より減少傾向に転じ、直近でも減少傾向が続き、現況は低位・減少と判断されました(図9)。

②2000年頃から沖合の産卵南下群を含む春漁が減少し、秋漁主体となっていましたが、近年は秋漁も少ない年が見られます。豊後水道域も減少傾向にあり、大分県豊後水道域、周防灘(複数県)で資源回復に取り組まれています。

③本種も冬季水温の経年変化との関連が認められ、数十年単位の海洋環境変動(レジームシフト)が資源に影響を与えている可能性が高く、人為的なコントロールは難しい部分があると思われますが、稚エビの成育環境(浅海干潟等)の確保、一定の産卵親魚を残すような方策(目合い拡大、休漁日等)、海底耕耘等による漁場保全策が考えられると提言されました。

図9 クルマエビ資源量指標値の変化
[第2種小型底曳網、出漁日数・水揚日隻数当たり漁獲量]

(8)イセエビ　資源レベル「中位」資源動向「減少」

①漁獲の大半を占める磯建網の資源量指標値は、'90年代に一度減少の後緩やかに増加、直近で再び減少し、現況は中位・減少と判断されました(図10)。

②鹿児島県西側の漁獲量は減少、北の三重県は増加、県内では県南の資源量指標値が減少傾向、県北・県中では微増と、分布の変化の兆候と地域による資源状態の違いが考えられました。

③県南代表漁協の試験操業時の重量組成変化を見ると、大型個体の消失と加入量減少の兆候(成長乱獲)が確認され、漁獲開始年齢の引き上げ(再放流サイズの拡大)と漁獲圧の低減(反数削減、休漁日)が、限られた資源の合理的利用に有効と提言されました。
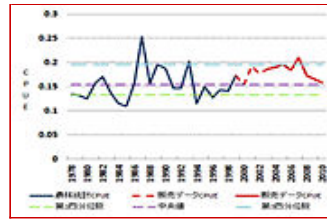
図10 イセエビ資源量指標値の変化
[磯建網、漁撈体数・水揚日隻数当たり漁獲量]

(9)カサゴ　資源レベル「中位」資源動向「横ばい」

①本種は資源回復計画が実施されており、詳細な調査により資源量が算出されています。推定資源量は1995年から減少傾向が強くなり、2001年に底となった後、近年は順調に増加して現況は中位と診断されました(図11)。成長が遅いことから、直近5ケ年の資源動向は横ばいと診断されましたが、若齢魚の資源尾数は大きく増加しています。

②この結果から、現在取り組まれている漁獲努力量抑制(禁漁期、漁獲量管理、小型魚再放流、禁漁区)や種苗放流による資源回復計画の管理措置は有効であると判断されました。
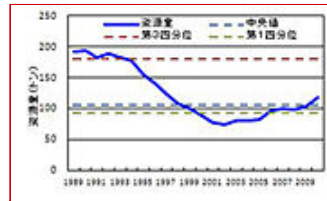
図11 カサゴ推定資源量の変化
[資源重量]

3.今後の資源評価について

今後も県の基本方針に基づき、沿岸資源の評価を実施していきます。魚種を拡大しながら、繰り返し評価を行うことにより、評価精度の向上を図りつつ、資源管理への取組の効果を検証していきます。日向灘の水産資源を合理的に利用していくために、今後とも御協力をお願い申し上げます。

4月の動き(県関係)

10日	平成24年度県立高等水産研修所入所式(日南市)
20日	漁業共済・漁業収入安定対策事業全国会議(東京都)

宮崎県旋網漁業組合第2回役員会

宮崎県旋網漁業組合(組合長菅野教義)は、去る4月6日(金)延岡ロイヤルホテルにて第2回役員会を開催した。

協議内容は下記の通り

・(1)日向灘海域における石油・天然ガス音波探査について

・(2)大分県漁業協同組合米水津支所からの要望について

・(3)その他

宮崎県漁協参事会三役会

宮崎県漁協参事会(会長・河野貞夫)は、4月18日(水)漁連会議室において三役会を開催した。提出された平成23年度事業報告書及び収支決算書(案)・平成24年度事業計画書及び収支予算書(案)等についてはすべて原案通り承認決定された。また、第1回定例会を5月25日に行うことで決定した。

宮崎県漁協職連第1回役員会

宮崎県漁協職員連絡協議会は、4月27日(金)水産会館研修室において第一回役員会を開催した。提出された平成23年度事業報告書及び収支決算書(案)、平成24年度事業計画書及び収支予算書(案)については、すべて原案どおり承認決定した。

また、本年度の活動としては、会員相互の親睦と融和を図り漁協運動の進展を期するため、次の通り取り組む方針が決められた。

◯レクリエーション

県北・県中・県南の3地区に分かれボウリング大会を開催する。

◯体育大会

例年通り10月下旬、海洋高校において開催する。

4月の動き

日	内容	日	内容
6日	宮崎県旋網漁業組合第2回役員会	9日	宮崎県浮魚礁利用協議会全体会議
18日	宮崎県漁協参事会三役会	19～20日	平成24年度宮崎県漁協初級職員研修会
27日	宮崎県漁協職連第1回役員会		

RELATED ORGANIZATION